



ミュージアム・レター

Gakushuin University
Museum of History

Museum Letter No.12

発行日 ● 平成22年(2010)3月1日

もくじ

「目白の森のその昔—学習院と考古学」展へようこそ1

学習院の考古学2-3

Information4

- ・展覧会のご案内
- ・史料館講座のご案内

平成22年度学習院大学史料館 特別展

「目白の森のその昔—学習院と考古学」展 へようこそ

学習院目白キャンパスでは、明治時代の校舎建築時に崖下より、その後も近隣で、縄文土器が採集され、この付近に遺跡が存在することが推測されていました。平成20年(2008)自然科学研究棟建設に伴い、初めて本格的な発掘調査が豊島区教育委員会により行われました。その結果、旧石器時代の石器、縄文土器、江戸～明治時代の遺構、遺物が発見されました。南に神田川を望む台地に位置する目白キャンパスは、古来良好な居住地であったことがわかります。さらに、詳細な自然科学分析を通して目白キャンパスの自然環境の変遷についても次第に明らかになりつつあります。

また今回の展示では阿部家第18代当主阿部正功(1860～1925)の知られざる足跡をはじめてご紹介します。正功は陸奥国棚倉藩主から明治維新を経て子爵となった人物で、人類学、考古学に強い関心を持ち、自ら調査・発掘を行いました。当館収蔵の阿部家史料の中にも関連の記録が残っています。日本考古学の基礎を築いた坪井正五郎、鳥居龍蔵といった学者と深く交流し、考古学の草創期の発展に大きく寄与しました。

学習院大学には考古学を専攻する学部学科はありません。しかし、旧制学習院時代から続く考古学研究の歴史があり、卒業後考古学界で活躍する人々もいました。また旧制学習院時代、大正初年頃設立された歴史地理標本室には今回展示する^{こんだごびょう} 嘗田御廟山古墳(伝応仁天皇陵)出土の水鳥埴輪をはじめとする貴重なコレクションがあり、学習院の考古学を育む大きな役割を果たしました。

昭和17年(1942)には学習院中等科移転予定地であった喜多見御料地で学習院主催の古墳群発掘調査が行われました。その後も学生達は数々の発掘調査を行い、日本考古学史に残る成果をあげました。

今回、この学習院に関わる考古学の展示を、はじめて総合的に行います。今まで知られていなかった「目白の森のその昔」を存分にお楽しみ下さい。

(長佐古美奈子)

